

マーキュリー・グリーン・クラブ (MGC)

T1	幾田 雅彦 角田 清 和田 邦博	石林 紀四郎 中尾 丈夫	岩澤 英輝 支倉 孝育	小澤 莊二 藤原 浩	鈴木 重雄 益子 正稔	田口 和義 吉岡省吾
T2	池田 信彦 深堀 清隆	大畑 道夫 松田 次郎	小室 滋 宮内 隆造	亀井 滋	鈴木 誠司	平野 真
B1	石原 隆 藤本 淳三	井上 清彦 藤原 尚	片山 修 光瀬 靖彦	菊池 享	黒田 修一	高倉 勇
B2	有馬 賢次 野老 正明	泉原 昭夫 富田 勇一	酒井 宣彦 橋本 民生	下村 肇 村永 知大	鈴木 堅仁 矢口 和彦	竹内 克広



2019年8月3日 第13回定期演奏会

南漣会合唱団

T1	神代 一徳 福家 伸治	新 栄一郎 松波 謙至	寶木 健一 森本 眞一	月川 兆 吉田 教昭	長田 幸一郎	平松 朋記
T2	今村 肇 戸田 勝	尾崎 納 夏川 寛夫	白井 清貴 長谷部 資朗	白石 太良 宮内 泰	菅原 基晴	土山 颯太
B1	小笠 稜太	瀧井 尚志	辻 秀郎	出口 順三	服部 栄治	安井 永
B2	赤崎 弘平 田中 彰一	今道 隆夫 仲嶋 研一	扇田 豊 松井 繁明	小倉 裕 牟田 岑男	海谷 叔伸 森田 清	曾家 義晴 和田 昭夫



2019年5月6日 ANCORの会

東京南漣会合唱団

T1	浅野 敏郎 鈴木 重雄	稲留 雄一 田中 利治	岡本 直久	鎌田 禮章	北 正己	坂井 和久
T2	大内 一	川野 晴生	黒田 俊之	鶴田 観治郎	野津 直樹	平手 彰
B1	今井 啓太 宗像 弘信	梶谷 俊一 柳原 恒久	川上 彰一	木田 豊	祖父江 浩之	富増 和彦
B2	磯田 卓 吉岡 稔	井上 嘉雄	北野 友一	諏訪部 和彦	中川 博義	柚木 裕文



2018年11月18日 第7回定期演奏会

六甲男声合唱団

T1	小林 和生	後久 義昭	佐々木 英洋	西本 憲生	松岡 茂雄	
T2	大隅 国雄 白川 秀司	加藤 雅夫 寺井 洋一	河原 達 花岡 亜光	川本 昭男 平林 陽	桐ヶ窪 卓 丸尾 嘉重	肥塚 禎夫
B1	浅野 洋 藤澤 隆博	伊原 吉之助 前田 豊治	岡澤 徹 松井 嘉和	加輪上 敏彦 山本 和洋	佐々木 道治 山本 稔	丹下 豊吉
B2	東 尚良 佐藤 敏弘 増川 真澄	石井 陽一 田中 安夫 三木 邦夫	市村 重勝 坪内 啓二	井上 和雄 徳重 光彦	奥村 隆 永井 哲郎	小林 康男 長央 徳太郎



2018年12月1日 定期演奏会

東京六甲男声合唱団

T1	飯塚 和憲 益子 正稔	進藤 宏 宮元 芳樹	鈴木 重雄 三好 和通	武田 勝	竹本 鉄三	橋田 晋治
T2	池田 信彦 横川 祐司	上田 尚樹 吉澤 聡一	大西 毅	亀田 卓一	岸本 正義	野村 敏夫
B1	植木 郁雄 團野 廣一	上山 雅介 藤本 淳三	小林 健一郎 溝口 正平	五味 信二	高倉 勇	田邊 弘幸
B2	大隅 孝二 矢内 忠雄	木谷 元彦	竹内 克広	樽井 一仁	長野 一字	古川 方理



2018年5月12日 定期演奏会

一緒に歌いませんか？

●マキュリー・グリーン・クラブ●

http://www.jfn.josuikai.net/circle/mgc/
連絡先: 片山 修 (副団長) osamu.katayama.psx@gmail.com

●南漣会合唱団●

https://www.male-choir-nanreikai.com/
連絡先: 松井 繁明 (幹事長) smatsui53@nifty.com

●東京南漣会合唱団●

連絡先: 宗像 弘信 (団長) mrhmunakata@gmail.com

●六甲男声合唱団●

http://rokkomc.web.fc2.com/
連絡先: 永井 哲郎 (運営委員長) tetsunaga9845@yahoo.co.jp

●東京六甲男声合唱団●

http://home.kobe-u.com/tokyo/hp/tokyorokkoudansei/index.html
連絡先: 溝口 正平 (副団長) sytan1945@gmail.com

第9回旧三商大OB
男声合唱団
交歓演奏会



マーキュリー・グリーン・クラブ (一橋大学OB合唱団)
南漣会合唱団・東京南漣会合唱団 (大阪市立大学OB合唱団)
六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団 (神戸大学OB合唱団)

2019年 10月5日(土)
会場 神戸文化ホール・大ホール





本日は「旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」にご来場賜り厚く御礼申し上げます。

今回で第9回目の演奏会となります。第1回演奏会より16年が経過しております。

私ども三つの大学は、三商大(東京商科大学・大阪商科大学・神戸商業大学)と呼ばれた旧制大学の頃からつながりが深かったのですが、新制大学になった後も学生サークルの交流が盛んにおこなわれました。なかでも、男声合唱団は一橋大学コール・メルクール、大阪市立大学グリーンクラブ、神戸大学グリーンクラブの三つが1953年から「旧三商大交歓演奏会」を東京・大阪・神戸の順で開催してきました。

その学生たちを中心に、卒業後も男声合唱を楽しむために作ったのが、現在のOB合唱団に発展しました。今では、団員は三大学出身者に限らず、様々な方が加わっています。

ご覧いただくとお分かりいただけると思いますが、年齢だけは確実に増えて行っております。しかし、歌声と歌心は青春そのもの、人生経験ではほかの団にも負けるものではありません。東京・大阪・神戸と離れてはいますが、合同練習も重ねてきました。

そんな合唱団ですが、心を込めて歌い、皆様を魅了できたらこの上ない幸せであります。

どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみください。

2019年10月5日
マキュリー・グリーン・クラブ
南澁会合唱団
六甲男声合唱団



第8回交歓演奏会(2017年10月)合同演奏「男声合唱の楽しみ」大阪国際交流センター・大ホール



1 マーキュリー・グリーン・クラブ

フォーレ作曲 「レクイエム」より／編曲 吉岡弘行

指揮：永井 宏／ピアノ伴奏：中野マリ

2 南澁会合唱団・東京南澁会合唱団

男声合唱のための組曲「蔵王」より

作詩：尾崎左永子／作曲：佐藤 眞

指揮：宮内 泰／ピアノ伴奏：石幸千照

3 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

デュオーパ作曲 「ミサ・ソレムニス」より

指揮：井上和雄

4 合同演奏

ミュージカル「ラ・マンチャの男」セレクションより

詞：JOE DARION／曲：MITCH LEIGH

男声合唱編曲：福永陽一郎

①MAN OF LA MANCHA ～ラ・マンチャの男

②DULCINEA ～ダルシネア

③LITTLE BIRD, LITTLE BIRD ～可愛い小鳥よ

④THE IMPOSSIBLE DREAM ～見果てぬ夢

指揮：平林 陽／ピアノ伴奏：島崎央子／打楽器：山縣雅志



曲目解説

1 ステージ フォーレのレクイエムのこと

この曲は日本では大規模な混声合唱と大編成のオーケストラで演奏されることが多いのですが、フォーレが書いた合唱は混声ではなく、ボーイソプラノと成人男子による男声合唱です。この曲が完成した後、フォーレは楽譜の出版社から一般に演奏されやすいように混声に編曲しオーケストラも編成を大きくするよう強く勧められました。現在使われている混声合唱やオーケストラの楽譜は、後年フォーレの弟子と言われる人たちの手によって編曲されたものです。フォーレがこの曲で女声やオーケストラの高音楽器を避けたのは、高音による華やかな表現を嫌い、低音の温かみがある音色を望んでいたからです。そのことは、以下にご紹介するこのレクイエムの成立に関わるフォーレの言葉から推測できます。

フォーレはこのレクイエムを書いていた1880年代後半に相次いで両親を亡くしました。そのためにこの曲は両親の死を悼んだものと思われがちですが、フォーレはそれを否定し、「このレクイエムは、誰のために書いたということはありません。敢えて言えば私の楽しみのために書いたのです」と述べています。また、この曲には死の恐怖の表現が少なく、レクイエムらしくない、という当時の批判に答えて次のように述べています。「この曲を死の子守歌のようだという人がいますが、これは私が死について感じるままを書いたものです。私にとって死は苦しみではなく、憧れと幸せに満ちた来世に向けて解放されることなのです。確かにこの曲は伝統からは外れています。私は長い間教会のオルガニストとして多くの葬式に立ち会ってきましたが、もうあのような儀式には飽きました。もっと何か違うことをやりたかったのです。」

長年カトリック教会に奉職したフォーレですが、数多くの声楽曲やピアノ曲を残しているものの、いわゆる宗教曲はほんの数曲しか書いていません。このことは上記のフォーレの言葉と考え合わせると、彼が教会とは一定の距離を置いていたことを窺わせます。この曲がレクイエムの文言を使いながらも、人が誰でも願う“死後の幸せな世界への旅立ち”を、宗教儀式の形に捉われずに、素朴な憧れを込めて書いたのもそのためかもしれません。

(永井 宏 記)

2 ステージ 男声合唱のための組曲「蔵王」について

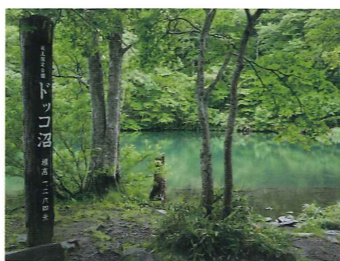
「みちのくをふたわけざまに そびえたまふ 蔵王の山の雲の中に立つ」 茂吉
もともと「蔵王」は混声合唱曲です。1961年度文部省主催第16回芸術祭合唱部門参加作品として、ニッポン放送の依頼を受けて作曲されました。その後半世紀を経て、京都男声合唱団創立50周年の記念演奏会のため、男声合唱曲として新しく編曲され、2014年3月8日、同団によって京都コンサートホールで初演されています。50余年まえ、高校生であった頃、混声合唱のための組曲「蔵王」が多くの合唱団でよく演奏されていたのを私は記憶しています。どの曲も覚えやすく、印象に残る名曲だったためであると思います。「蔵王讃歌」、「どっこ沼」、「吹雪」など、山の風景を描いた曲だけでなく、「投げよう林檎を」という若々しく軽快な曲もあれば、「おはなし」、「雪むすめ」のように、民話の宝庫である東北の特色を生かした曲もあり、変化に富んだ構成になっています。佐藤眞(1938年生まれ)は、混声合唱のための組曲「旅」や混声合唱のためのカンタータ「土の歌」、中でも「土の歌」終曲の「大地讃頌」は、特に広く知られています。その他、交響曲や室内楽、器楽曲、童謡など、現在も旺盛に作曲活動を続けています。作詞の尾崎左永子(1927年生まれ)は、歌人、随筆家として多くの著書があり、現在も住まいのある鎌倉で「源氏物語」を原文で声に出して読む勉強会を続けるなど、活動は盛んです。

この演奏会の準備活動として、現地をいちど見ておきたいと思立ち、この7月、東京と大阪の合唱団有志で山形・蔵王を訪ねました。温泉につかり、どっこ沼へ寄ったり、冒頭の歌碑の立つ蔵王山頂にも登ったりと、実際の風景を自分たちの目で見てきました。帰った後も、一緒に行けなかった団員のために、スライドや動画を使いながら報告会も行いました。曲中で歌われる風景を、皆様にもぜひ感じてほしいと思っています。春、夏、秋、冬と四季の蔵王の情景を存分に歌い上げたこの曲を本日、皆様にお送りできることを楽しみにしています。

(宮内 泰 記)



蔵王山頂



どっこ沼

3 ステージ デュオーパの「荘厳ミサ」

作曲者デュオーパやその「荘厳ミサ」についての歴史上の詳細についてはあまり知られていませんが、ネットで調べてみて、一番詳しく書いてあったのが「日本男声合唱史研究室」というタイトルのもとに個人が「私家版」と称してアップしておられるものです。信頼できるものと判断して、そこから少し引用させていただきますが、デュオーパは1832年フランスのアラスで生まれ、17歳でパリ音楽院に入学したあと古郷のアラスで男声合唱団の指揮者となり名声を博します。この荘厳ミサは1850年代の後半に作曲されています。そして彼は1890年、あるいは96年に没したということです。

日本では関西学院大学のグリーククラブの指導者だった林雄一郎氏が楽譜を入手して以来、それが流布して日本の男声合唱界では名曲として知られるようになりました。

ところでこの曲はクラシックの曲としてはマイナーなものです。合唱曲として一級品のもので、ロマン派中期の上質なロマンに溢れた曲ですが、情感が豊かであるとともに古典的な様式感覚も備えています。そのバランスが素晴らしい名曲です。今日はセレクト版で演奏しますが、第1曲キリエでは、「主よ憐れみ給え、キリスト憐れみ給え Kyrie eleison Christe eleison」と、主への祈りが穏やかではあっても情感に満ちて歌われます。第2曲グローリアは冒頭のダイナミックなユニゾンから始まって、神の栄光を称えるものですが、中間部の「われらを憐れみたまえ miserere nobis」という部分では重唱となって、神への願いが美しく歌われます。第3曲クレドこそミサの中核部分で、信条告白が行われます。それは、キリストが人々を救うために人の姿となって神の降臨した姿であること、そのキリストが十字架にかけられて葬られるが、三日後に蘇ったことへの信仰が告白されるのです。つまりキリストの受難と再生のドラマが見事な音楽とともに語られます。終曲は第4曲アニヌス・デイですが、我々の罪を贖って下さった神の子羊(アニヌス・デイ)であるイエスへの祈りが「われらに平安を与え給え dona nobis pacem」と穏やかに歌われます。デュオーパの素晴らしい音楽が皆さまに伝わることを願って歌いたいと思います。

(井上和雄 記)

4 ステージ ミュージカル「ラ・マンチャの男」より

ミュージカル「ラ・マンチャの男」は、アメリカの劇作家デール・ワッサーマンが、スペインはセルバンテスの名作「ドン・キホーテ」を題材に1965年に書き上げたミュージカル作品。劇中歌は、作詞ジョー・ダリオン、作曲ミッチ・リーのコンビで書き上げられ、同年、コネティカット州の劇場を最初に、ニューヨークでも上演、瞬く間にその評判は高まり、翌1966年のトニー賞ではミュージカル作品賞、主演男優賞、演出賞、歌曲賞、装置賞の5部門受賞という快挙を成し遂げました。現在では、名作ミュージカルの定番として世界50カ国、30以上の言語で上演されており、日本でも二代目松本白鸚(前名：松本幸四郎)が主役を務める公演が1000回を超えて現在も続いていることはご存知のとおりです。2012年には故デール・ワッサーマンが受賞したトニー賞のトロフィーが、故人の意思により松本幸四郎に贈られるほど、国際的に高い評価を受けている大人気演目、それが「ラ・マンチャの男」といえるでしょう。

【ラ・マンチャの男(我こそドン・キホーテ)】

ミュージカルは「ドン・キホーテ」の作者であるセルバンテスが牢獄で即興劇を演じる場所から始まります。その即興劇の主人公キハナが、荒れ果てた世の不正を正すため、「我こそは遍歴の騎士ドン・キホーテ」と旅に出るときに歌われる、勇ましさに満ちた一曲。

【ダルシネア】

ドン・キホーテは場末の居酒屋で働く娘アルドンサを、高貴なダルシネア姫と思い込み、騎士として仕えることを誓う歌。優美なラブソングです。

【小鳥よ小鳥】

ダルシネア姫に宛てたドン・キホーテからのラブレターを、酒場に集う男たちがアルドンサから取り上げて「こんな娘のどこが姫なんだ」とからかう場面で歌われる一曲。カリブソ(カリブ海の音楽独特のリズム)が印象的です。

【見果てぬ夢】

ドン・キホーテが騎士道を全うしようとする思いを歌った劇中最大のヒット曲。「夢見ん・・・見果てぬ夢を。挑まん・・・不屈の敵に。堪えん・・・忍び難き悲しみを。向かわん・・・勇者も行かぬ地へ。これぞ我が旅。希望の星を追い求めん。たとえ望みなく、遥かなりとも・・・。」

世界中の人々を勇気づけてきた、究極の人生の応援歌といえるでしょう

(平林 陽 記)

マーキュリー・グリーン・クラブ (MGC)

MGCは、1999年に一橋大学男声合唱団「コール・メルクル」のOBが中心になって結成され、今年ちょうど創立20周年になります。発足当初から、団員は出身校や経験を問わないことを明確な方針として打ち出し、音楽を愛する人であれば喜んで迎え入れ、共に合唱を楽しんでいます。現在の団員数は60名程で平均年齢は70歳を過ぎていますが、合唱にかける思いは熱く、週1回の練習の出席率も極めて高い、男声合唱をこよなく愛する元気な熟年合唱団です。

MGCはこれまで良き指導者に恵まれてきました。特に3年前文化功労者に選ばれた合唱界の大御所、田中信昭先生からは、合唱の持つ奥深さ、音楽をつくる喜びを、平易にしかし厳しく教えていただきました。

演奏活動は、この8月に第13回を迎えた定期演奏会を中心に、旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会、海外演奏旅行、一橋大学現役男声合唱団との合同演奏会等を行っています。

海外公演は、2004年に南フランスを訪問して以来、南ドイツ、北イタリア、英国、オーストリア、中部イタリア、バルト三国へと7回を数えています。各国の地方都市も必ず訪ねて、地域合唱団との共演、村の小さな教会での演奏会を催し、演奏会後は交歓会を持つなど地元の人たちとの草の根交流の機会を大事にして来ました。

レパートリーは、日本歌曲や民謡、海外の古典音楽や歌曲など多様ですが、日本の現代作曲家への新曲委嘱を行う等、幅広くチャレンジしています。また、オペラアリア、カンツォーネなどの親しみやすい曲を男声合唱団へ編曲委嘱し、初演しています。

今日のフォーレの「レクイエム」は15年前の南仏演奏旅行で演奏した思い出深い曲です。皆さまの胸に少しでも響くものをお届けできたら、この上ない喜びです。

指揮 永井 宏



一橋大学卒業。在学時代一橋大学男声合唱団コール・メルクルの指揮者。指揮法を荒谷俊佐氏(前日本指揮者協会会長)、故浜田徳昭氏に師事。ピオラを東義道氏に師事。アマチュアオーケストラや合唱団の指導に豊かな経験を持つ。コールアナネネ常任指揮者。三井住友海上管弦楽団名誉指揮者。当団マーキュリー・グリーン・クラブの創立から現在まで、20年間に亘る中核的存在。

ピアノ 中野マリ



桐朋学園大学音楽部ピアノ課卒業。お茶の水女子大学大学院修士課程修了(演奏学専攻)。西尾悠美子、富本陶、遠藤秀一郎の各氏に師事。リサイタル、室内楽、伴奏の演奏活動を行う。東京交響楽団などオーケストラと、ショパン、モーツァルトの協奏曲を協演。アメリカ・ペンシルベニア州の音楽祭、中国音楽家協会の招聘による成都、北京、瀋陽でのリサイタルが好評を得た。埼玉学園大学、川口短期大学講師。2000年よりマーキュリー・グリーン・クラブのピアニスト。

南澁会合唱団

大阪市立大学(旧制大阪商科大学)グリークラブのOBが集まって1940(昭和15)年に発足し、現在はOB以外にもみなさんも広く参加している男声合唱団です。詳しくは [南澁会合唱団](#) [検索](#)

<練習>なんば大阪ミュージック倶楽部で、毎週土曜18時~20時30分。バリトン歌手木村孝夫氏が月一度ボイストレーニング。石幸千照さんがピアニストとして2002(平成14)年以来、ずっと団を支えています。

<演奏会>年2回・・・定期演奏会および旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会が2年に各1回、四つの男声合唱団のジョイントコンサート(ANCORの会)が毎年1回と、充実しています。創立80周年記念・第22回定期演奏会は2020年秋を予定。

<メンバー>市大グリークラブ部員も加わる10代から80代の、あいかわらず腕白盛りの男の子ばかりですが、音楽と飲み会への情熱は誰にも負けません。2019年6月には、大阪フェスティバルホールでベルリオーズ「レクイエム」を大阪シンフォニッククワイアと共に歌い、新たな境地を開きました。

東京南澁会合唱団

大阪市立大学グリークラブの首都圏在住OBが中心となって2003年(平成15年)に設立された男声合唱団です。旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会には第1回目から南澁会合唱団と共に合同で出演しています。詳細は [東京南澁会合唱団](#) [検索](#) ただし更新準備中。

<演奏会>2006(平成18)年に第1回定期演奏会を開催。昨年11月には、創立15周年・第7回定期演奏会を上野学園石橋メモリアルホールで開催しました。市大グリークラブの歴史と深いつながりがある兎東康雄氏を、第5回定期演奏会から客演指揮者に迎えて、演奏の向上を図っています。また定期演奏会ではアコーディオンやトランペット、パーカッションを取り入れるなど、毎回お客様に楽しんで頂けるようプログラムを工夫しています。

<練習>通常神田と中野にある教会で毎月第1、第3、第5土曜日の午後1時から4時半まで。毎年行う強化合宿はシニア層にとってはハードなものです。学生時代同様、練習後の宴を楽しみに乗り越えています。

指揮 宮内 泰



南澁会合唱団常任指揮者。大阪市立大学グリークラブで指揮者をつとめ、1976年大阪市大理学部卒業後、理科教員として松原市内のいくつかの中学校で教えながら、吹奏楽を指導。2013年より南澁会合唱団指揮者。トランペットやサクソフォンなども演奏する。ラテンやジャズ、ベートーベンやモーツァルトが大好き。苦手なのは宗教曲だが、今年6月にベルリオーズの「レクイエム」を歌う機会があり、萌える。今後も、幅広いジャンルの曲に挑戦していきたい。

ピアノ 石幸千照



大阪芸術大学を学費全額免除生として卒業。同大学芸術専攻科終了。卒業時、演奏学科研究室賞受賞。卒業演奏会、関西新人演奏会に出演。第1回大阪国際音楽コンクール入選。1999年秋期特別コースにて、A.イエンナー氏に、2001年マタイザー・ゾンマー・アカデミーにてG.ルードヴィッヒ氏に師事。これまでに、故岡坂恭子、U.シュニャベルガー、平井令奈の各氏に師事。2004年ジョイントリサイタル開催。2005年、関西フィルハーモニーオーケストラと協演。2006年、ロシアにて国立アカデミーオーケストラと協演。大阪芸術大学伴奏要員を経て、現在関西女子短期大学非常勤講師、ヤマハ音楽教室講師。NHKコールマドリガル、エトワールかしわら、ソルシエール、南澁会合唱団のピアニストを務める。全日本ピアノ指導者協会会員。

六甲男声合唱団

1954年に神戸大学グリークラブのOBを中心に創立されました。その後、神戸大学以外の大学OBや一般の合唱好きも入団して、オーソドックスな男声合唱団に成長しました。

2014年1月に60周年記念定期演奏会を神戸新聞松方ホールにて開催し内外から好評を博しました。

60有余年の活動を経て現在は充実期に入っております。活動の舞台も国内外に及び、団員も40名を超えるまでに成長しました。他校出身者も3割近く加わり、単なる同窓会合唱団ではなくいわゆる一般の合唱団になっています。

音楽監督兼指揮者と、持ち味の異なる2名の団内指揮者に率いられ充実した活動振りは団史上かつてない高揚期を迎えているといってもよいと思います。2000年と2003年にフランス、2005年にドイツ、そして2018年に台湾への海外演奏旅行を大成功裡に終え、国内においても隔年開催の定期演奏会、毎年開催の「4つの男声合唱の集い(ANCORの会)」および隔年開催の「旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」など多彩な活動を続けています。

東京六甲男声合唱団

東京六甲男声合唱団(略称:TRMC)は、2002年に東京在住の神戸大学グリークラブOBを中心に発足しましたが、その後門戸を広く開放して他大学OBも積極的に迎え、今やグリーOB以外のメンバーは半分近くにまで広がっております。

2006年4月以来、2年毎に定期演奏会を開催しておりますが、来年5月には、第8回定期演奏会を第一生命ホールにて行います。毎週火曜日の夜、ハードな練習とその後の杯を片手に音楽談義することをこよなく愛する「永遠の青年」グループです。

指揮 井上和雄



六甲男声合唱団音楽監督兼指揮者、女声合唱団クールフレール指揮者。神戸大学経済学部卒。在学中、グリークラブ指揮者。著書に「モーツァルト 心の軌跡」(サントリー学芸賞)、「ベートーベン 闘いの軌跡」・「ハイドン ロマンの軌跡」・「シューベルトとシューマンー青春の軌跡」(いずれも音楽の友社)、「ロンドン音楽紀行」(神戸新聞社)、「さらばヘーゲル」(日本経済評論社)など多数。また画家としても大阪で毎年個展を開催。神戸商船大学(現神戸大学海事科学部)名誉教授。

合同演奏

指揮 平林 陽



3歳から鍵盤に親しみ、1983年PTNAピアノコンペティションにて全国2位入賞。中学・高校時代には吹奏楽に明け暮れ、神戸大学入学とともにグリークラブに入部し、合唱に出会う。同団にて学生指揮者を務め、現在は公務員としての勤務の傍ら、一般合唱団や大学合唱団の指揮者、企画ステージ等の伴奏者・編曲者として活躍。六甲男声合唱団指揮者、混声合唱団はもーるKOB E指揮者、神戸栄光教会聖歌隊指揮者兼オルガニスト。指揮を齊田好男氏、鶴崎庚一氏に、ピアノを釜沼圭子氏に、合唱指導を故・平田勝氏に師事。

打楽器 山縣雅志



大阪音楽大学卒業。第6回アジア国際コンクールにて「優秀賞」受賞。大阪交響楽団、エウフォニカ管弦楽団など、多数のオーケストラ公演にて客演打楽器奏者を務める。現在はドラマー、打楽器奏者として、コンサート、Liveなどジャンルを問わず活動する傍ら、後進の指導にもあたる。パーカッションパフォーマンス集団「Leverage」、"パーカッション ROOMS"各メンバー。

ピアノ 島崎央子



神戸女学院大学音楽学部音楽学科器楽専攻ピアノ科で学ぶ。1992年同学部を首席で卒業。山上 明美、ゲイリー・スマイルの各氏に師事。ハンナ・ギュリック・スエヒロ賞を受賞。第62回東京読売新人演奏会に出演。神戸女学院大学オーケストラ、関西フィルハーモニー管弦楽団と協演。2004年よりヴァイオリン奏者の故・稲庭 達氏と演奏活動を続けたほか、ソロ演奏でも活躍する。2010年8月、2014年10月には、ベートーベン・ピアノ四大ソナタを一日で連続演奏し、絶賛を博す。阪神大震災復興祈念コンサートは今年で9回を数え、来年のソロコンサートはアミティホールで5月23日開催予定。六甲男声合唱団の伴奏ピアニスト(2006年)を務めている。

第9回旧三商大OB 男声合唱団 交歓演奏会

ステージ
1

マーキュリー・グリーン・クラブ

フォーレ作曲 「レクイエム」より／編曲 吉岡弘行
指揮：永井 宏／ピアノ伴奏：中野マリ

ステージ
2

南漣会合唱団・東京南漣会合唱団

「男声合唱のための組曲 蔵王」より
作詩：尾崎左永子／作曲：佐藤 眞
指揮：宮内 泰／ピアノ伴奏：石幸千照

ステージ
3

六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

デュオーパ作曲 「ミサ・ソレムニス」より
指揮：井上和雄

ステージ
4

合同演奏

ミュージカル「ラ・マンチャの男」セレクションより
詞：JOE DARION／曲：MITCH LEIGH

男声合唱編曲：福永陽一郎

- ①MAN OF LA MANCHA ～ラ・マンチャの男
- ②DULCINEA ～ダルシネア
- ③LITTLE BIRD, LITTLE BIRD ～可愛い小鳥よ
- ④THE IMPOSSIBLE DREAM ～見果てぬ夢

指揮：平林 陽／ピアノ伴奏：島崎央子／打楽器：山縣雅志

2019年

10月5日(土)

14時開演 (13時15分開場)

会場 神戸文化ホール・大ホール 全席自由席：1,000円

BE KOBE

